令和５年度

学校評価報告書

甲府市立西中学校

１　基本方針

年度当初に確認された、「令和５年度学校経営方針」に示されている１８の「学校経営の重点」について、教職員による「自己評価」を行うとともに、生徒・保護者にもアンケートを実施し、学校改善への資料とする。

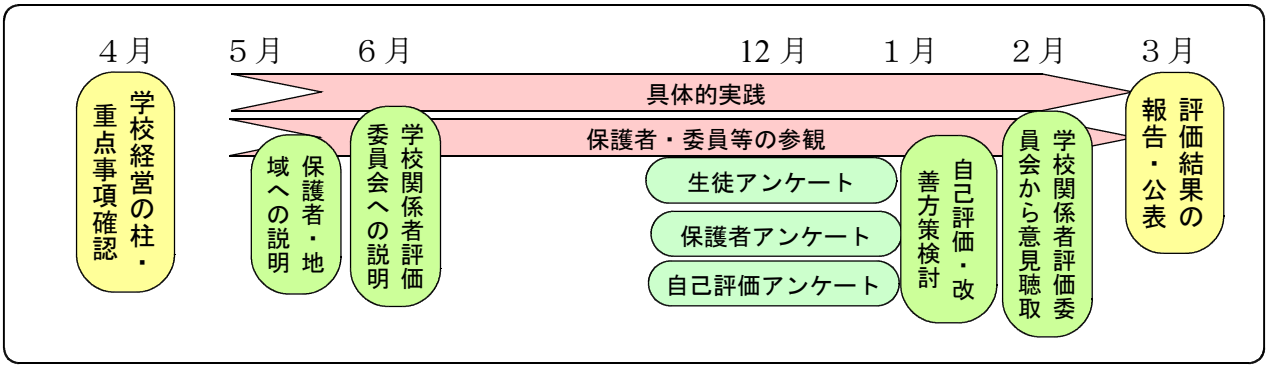
また、自己評価の結果について「学校関係者評価委員会」により評価することをとおして、客観性・透明性を高め、学校・保護者・地域が連携して学校運営の改善・教育水準の向上にあたることを目指す。

２　評価指標（評価項目）・アンケート対象について

令和５年度学校経営の重点に示されている１８の事項について、評価項目を設定する。なお、生徒・保護者アンケートについては、回答可能な項目とし、それぞれ２０項目・１９項目とする。

アンケートは肯定的回答と否定的回答が明確になるよう、各項目について４段階評価で実施する。また、アンケート対象は全生徒・全保護者（家庭数）とした。

３　日程



＊生徒アンケート：１２／４～１５まで（グーグルフォームで実施）
　生徒数３８１　回答数３１３　回収率８２．２％
＊保護者アンケート：１２／４～１５まで（西中安心メールで実施）
　家庭数３５２　回答数２４８　回収率７０．５％

４　評価結果の分析・活用

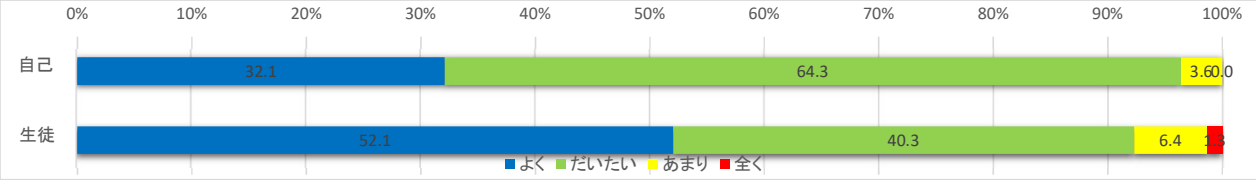
アンケート結果については、肯定的回答が９０％を越えた項目については「良好」と判断し、肯定的評価が８０％を下回った項目については具体的な改善策を検討していくこととする。

また、分析や改善策については「学校関係者評価委員会（学校運営協議会）」及び「ＰＴＡ本会役員会」からの意見聴取を経て検討後、ホームページ等で公表する。

Ⅰ　確かな学力の育成と向上（学力保障）

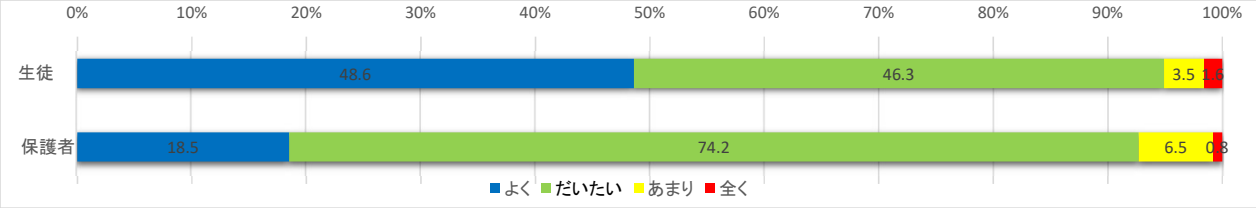
１　生徒が深く考え、主体的・対話的に取り組む授業実践

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	授業において、主体的・対話的な活動を取り入れ、深く考える授業実践に努めている	32.1	64.3	3.6	0.0	96.4	100.0	93.8
生徒	授業中の課題に、前向きに取り組み、解決できるように取り組んでいる	52.1	40.3	6.4	1.3	92.4	95.4	97.2



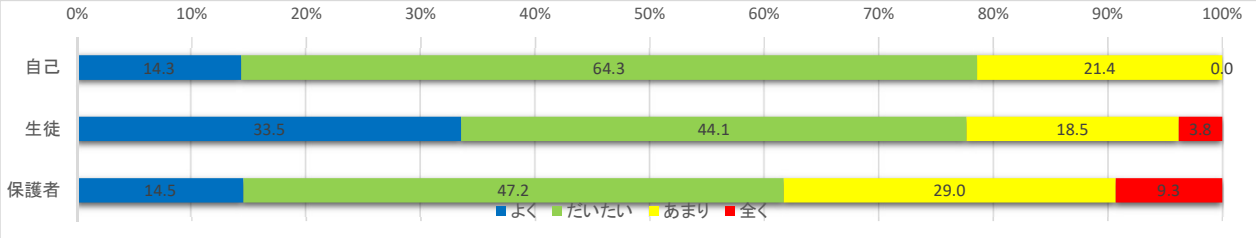
２　基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
生徒	先生はわかりやすく授業をしてくれる	48.6	46.3	3.5	1.6	94.9	97.1	99.1
保護者	学校では学習指導や学力向上への取り組みが適切に進められている	18.5	74.2	6.5	0.8	92.7	89.9	91.8



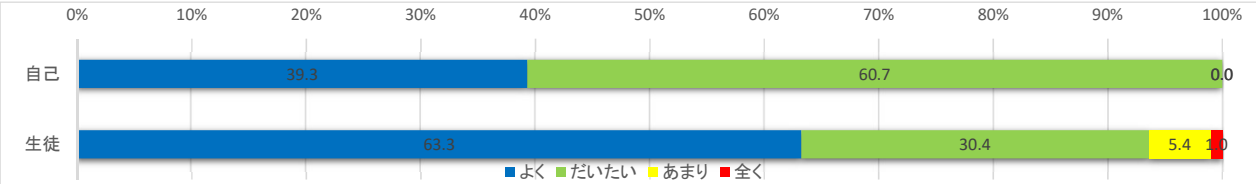
３　家庭学習の定着

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	生徒の家庭学習が習慣化するよう授業スタイルを工夫し、「学びの記録」の活用と家庭学習の課題設定に配慮している	14.3	64.3	21.4	0.0	78.6	82.2	84.4
生徒	「学びの記録」は学習内容の振り返りや家庭学習に役立っている	33.5	44.1	18.5	3.8	77.6	76.2	83.8
保護者	お子さんは家庭学習が習慣化している	14.5	47.2	29.0	9.3	61.7	59.0	61.4



４　小集団を活用した授業

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	少人数での学習場面や課題設定を工夫するなど、授業の中で生徒の思考力・判断力・表現力を高めるような実践を進めている	39.3	60.7	0.0	0.0	100.0	96.4	93.7
生徒	授業中少人数で学習することにより、自分では気がつかなかったアイディアを知ったり、自分の考えがより良いものになったりすることがある	63.3	30.4	5.4	1.0	93.7	94.8	94.1



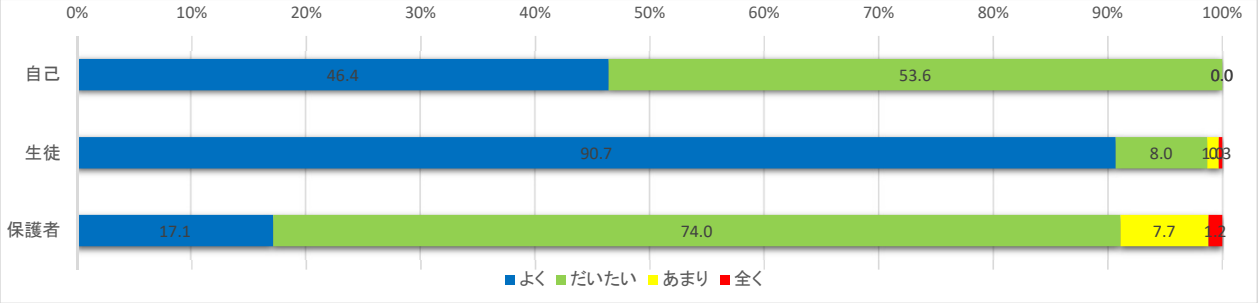
考察

課題に対し前向きに取り組めたという生徒の意識は高いが、昨年度に較べマイナス3ポイントとなった。課題の設定の工夫に努める必用がある。「学びの記録」については、その有益性を感じている生徒は昨年度とほぼ同数であるが、自己評価の結果から、教師側が家庭学習と有機的に結びつけて活用させることを意識し、具体的にどのように活用するのかを生徒に示すことができるようにしていく必要がある。小集団での学習は、その有益性について理解をしている生徒も多く、主体的・対話的な学習の充実という点からも継続して取り組む必要がある。家庭学習については授業と有機的に結びついた課題の提示、1人1代端末の利点を生かした家庭学習の充実を進めていく必要がある。

Ⅱよりよく生きようとする心の教育・生徒指導の充実　特別支援教育体制の整備・推進（成長保障）

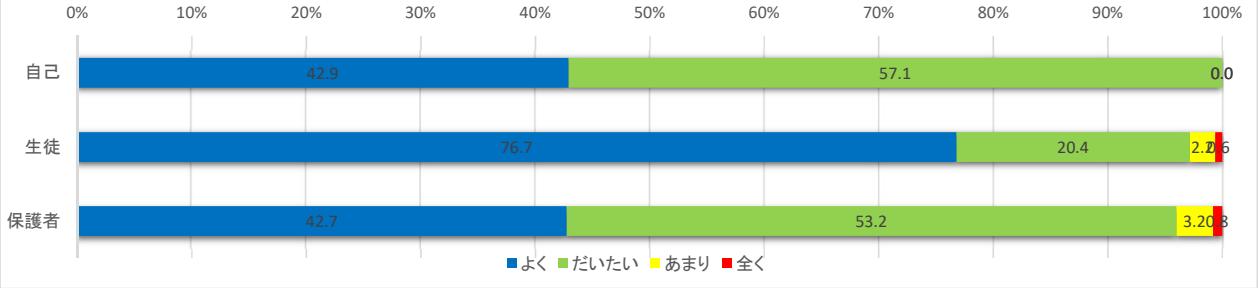
１　いじめ問題への取り組み

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	生徒の人権意識高揚を図るなどいじめの未然防止や、早期発見・早期対応に努めている	46.4	53.6	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0
生徒	いじめは絶対にいけないと思う	90.7	8.0	1.0	0.3	98.7	98.7	98.6
保護者	学校はいじめ問題に適切に取り組んでいる	17.1	74.0	7.7	1.2	91.1	89.5	92.1



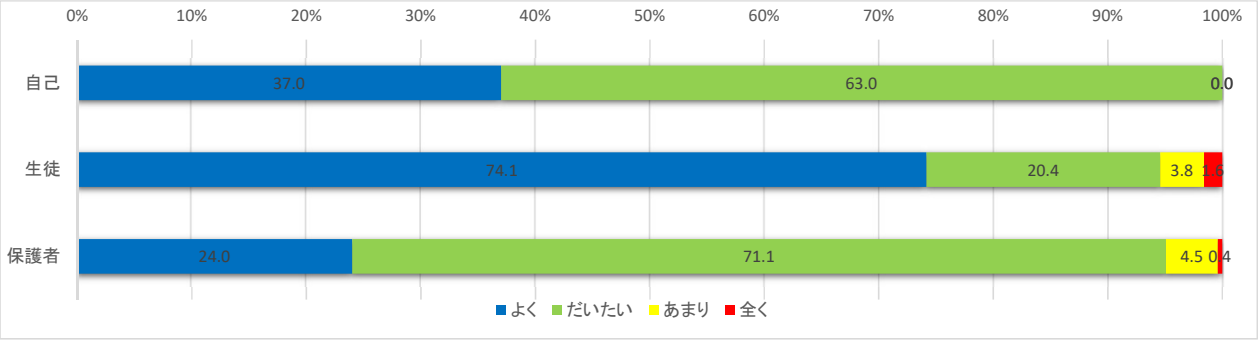
２　不登校への対応

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	生徒間の望ましい人間関係構築に努めるなど豊かな人間性を育む指導が行われている	42.9	57.1	0.0	0.0	100.0	100.0	93.8
生徒	私の周りには、優しく、思いやりもった友達がいる	76.7	20.4	2.2	0.6	97.1	97.4	98.3
保護者	お子さんの友達との人間関係は良好である	42.7	53.2	3.2	0.8	95.9	94.8	95.8



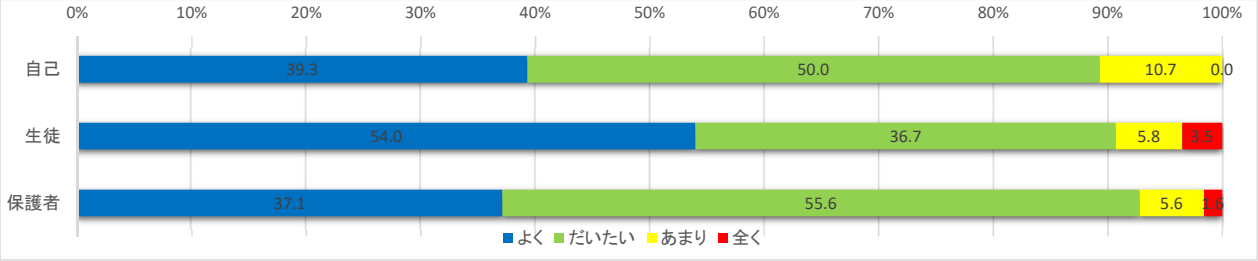
３　道徳教育

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	命の大切さや人間としての生き方などについて、道徳の時間を中核に全教育活動において道徳教育の推進に心がけている	37.0	63.0	0.0	0.0	100.0	100.0	90.6
生徒	道徳の授業で命の大切さや人間としての生き方について考えることがあった	74.1	20.4	3.8	1.6	94.5	96.7	96.9
保護者	学校では命の大切さや人間としての生き方について適切に指導している	24.0	71.1	4.5	0.4	95.1	93.6	92.4



4　教育相談体制の構築

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	職員による相談体制が確立され、関係機関との連携が効果的に推進されている	39.3	50.0	10.7	0.0	89.3	92.8	91.0
生徒	先生方は悩み事や相談に親身になって対応してくれる	54.0	36.7	5.8	3.5	90.7	90.5	94.0
保護者	教職員は保護者からの問い合わせや相談に誠実に対応している	37.1	55.6	5.6	1.6	92.7	91.4	94.6



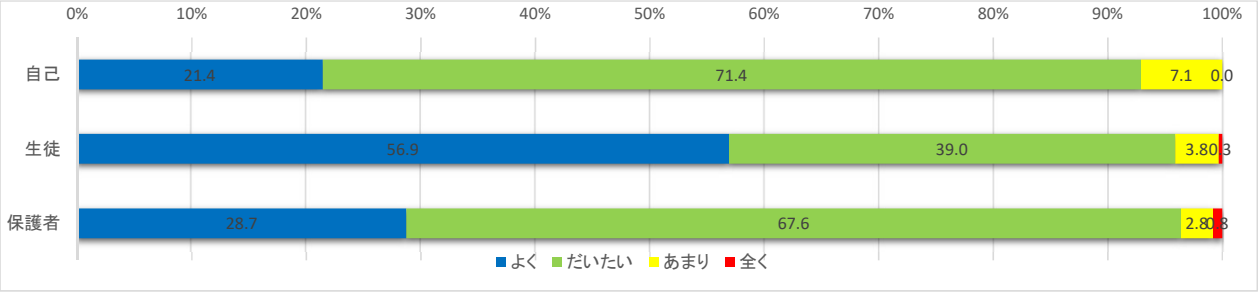
考察

・多くの項目で肯定的な回答の割合は昨年度と同等となった。保護者、生徒の願いを受け止め、学校の対応や取組をしっかりと説明し、生徒に寄り添った指導、相談体制の充実を図っていく必要がある。特に、生徒や保護者からの相談にはいつでも対応でき、学びたい時にはいつでも学べるような環境を整え、安心して学校に通える雰囲気を備えた学校にしていく必要がある。

Ⅲ健康体力の向上・安全管理体制の見直・充実（健康体力・防災）

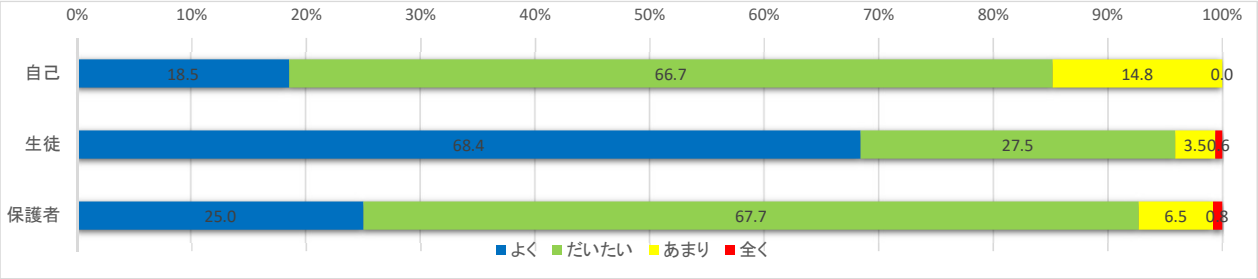
1　安全管理体制の構築

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	交通安全・防災・防犯等に対する安全管理体制の見直しや充実が図られている	21.4	71.4	7.1	0.0	92.8	96.4	96.8
生徒	地震や火災の時どう避難したらよいかなどわかっている	56.9	39.0	3.8	0.3	95.9	95.4	98.8
保護者	学校では、交通安全や防災・防犯への指導に適切に取り組んでいる	28.7	67.6	2.8	0.8	96.3	95.9	96.5



2　健康・体力の向上

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	健康づくり・体力づくりの取り組みが確実に進められている	18.5	66.7	14.8	0.0	85.2	96.4	87.5
生徒	授業や学級活動、部活動などをとおして、健康について考えたり、体力向上に努めている	68.4	27.5	3.5	0.6	95.9	95.2	95.5
保護者	学校では、生徒の健康づくりや体力向上に適切に取り組んでいる	25.0	67.7	6.5	0.8	92.7	94.8	94.6



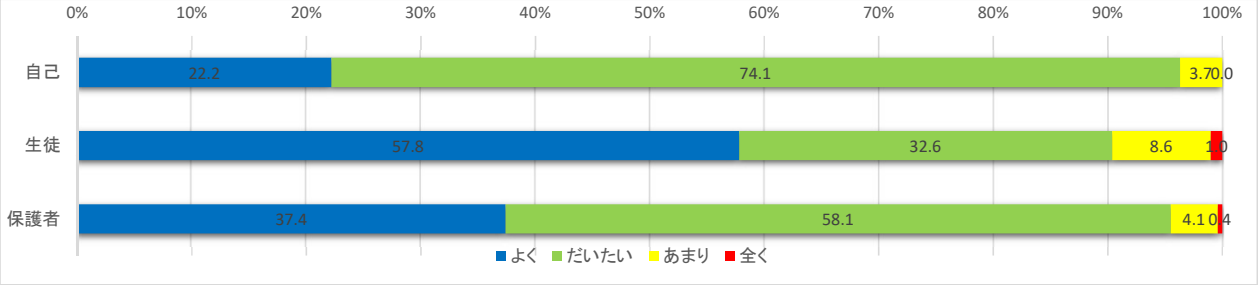
考察

・避難訓練の計画的な実施により、生徒がどのように避難していいのか理解することができているが、学校生活に留まらずいかなる時、いかなる場所でも災害発生時に自らの命は自ら守る力を身に付けさせる必要がある。加えて教師の防災意識を高めるためにも、訓練内容については複合災害を想定したものなど工夫を図る必要がある。健康体力の向上については、一校一実践の取組を充実し、体力の向上を図っていく必要がある。

Ⅳ学校・家庭・地域の連携　開かれた信頼される学校づくり（小中連携）

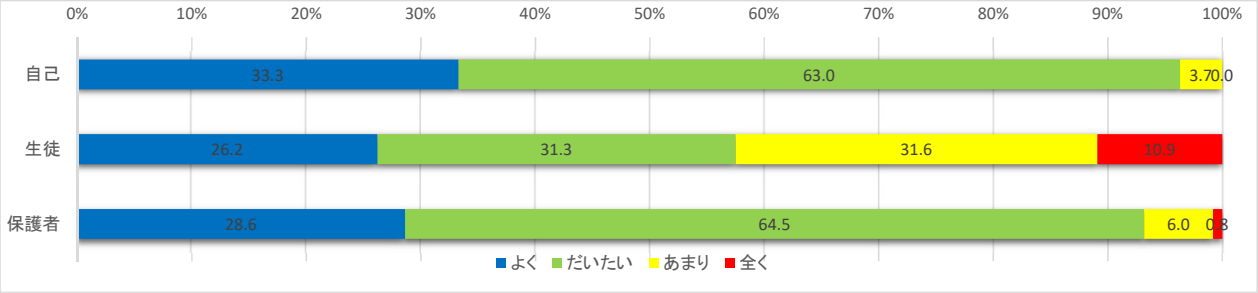
１　小中連携の推進

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	地域の小学校との連携が進められ、生徒の成長や教員の指導に役立っている	22.2	74.1	3.7	0.0	96.3	89.2	81.3
生徒	西中は学区の小学校と工夫して交流している（オープンスクールなど）	57.8	32.6	8.6	1.0	90.4	89.9	92.1
保護者	学校は小学校と工夫しながら連携している（オープンスクールなど）	37.4	58.1	4.1	0.4	95.5	95.5	95.3



２　地域等との連携

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	学校は保護者や地域に積極的に情報を発信し、地域ボランティアを有効に活用し、連携体制が推進されている	33.3	63.0	3.7	0.0	96.3	96.4	87.5
生徒	地域や自治会の行事にできるだけ参加している	26.2	31.3	31.6	10.9	57.5	59.3	56.2
保護者	学校は、教育活動や生徒の様子を適切に伝え、地域とも連携をしている	28.6	64.5	6.0	0.8	93.1	92.5	94.9



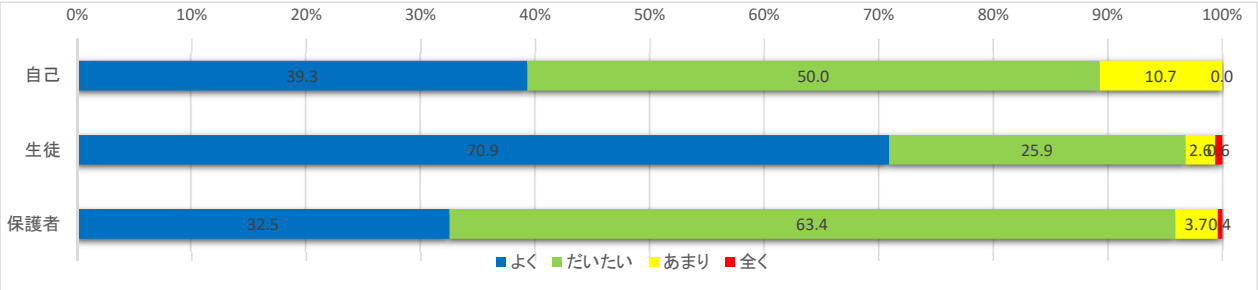
考察

・小中連携では、オープンスクールでの小学生の参観、地域あいさつ運動での中学生による小学校でのあいさつ運動ができた。一方、6年生への陸上競技の指導は小学校との行事予定が合わず実施できなかった。
・1学年による小学校訪問では、小学生との交流が図れ、小学校を訪問した生徒にとっても良い活動となった。
・学生ボランティアは1学期後半から活用が進んだが、大学の講義の関係から、特定の時間、特定の教科でしか活用ができなかった。必用とされる学級、授業、場面で活用が図れるよう検討していく必要がある。

Ⅴ全生徒参加による生徒会活動（生徒会活動）

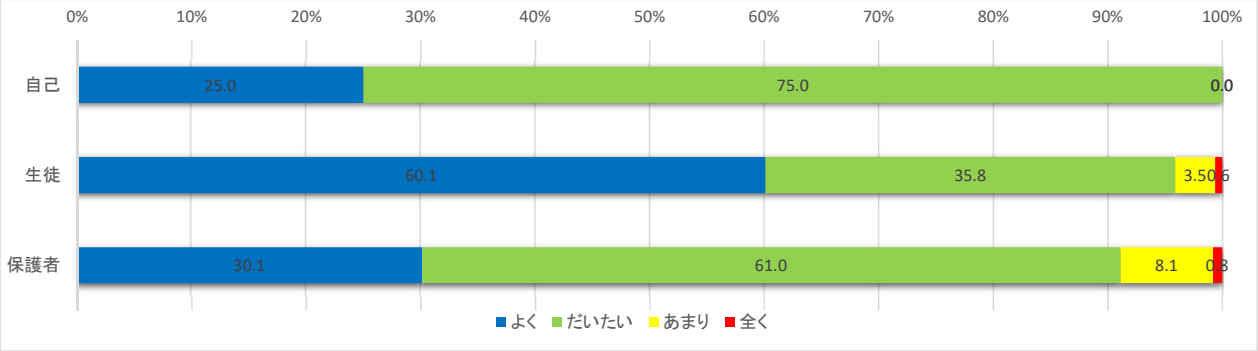
１　委員会活動の活性化

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	生徒の主体性や自主性を育み、自律（自立）の基礎を培うような生徒会活動（委員会活動）が実践されている	39.3	50.0	10.7	0.0	89.3	85.7	93.7
生徒	学園祭や合唱祭をはじめ、日常の委員会活動などにも積極的に参加している	70.9	25.9	2.6	0.6	96.8	97.4	96.6
保護者	学校の生徒会活動は活発である	32.5	63.4	3.7	0.4	95.9	93.2	95.3



２「誇れる西中」

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	生徒会活動を通して、生徒の「誇れる西中」への参画意識は高まっている。	25.0	75.0	0.0	0.0	100.0	92.8	81.2
生徒	「誇れる西中」（あいさつ・清掃・時間）づくりを意識している	60.1	35.8	3.5	0.6	95.9	97.0	96.9
保護者	学校は「誇れる学校」づくりに向け努力している	30.1	61.0	8.1	0.8	91.1	91.8	94.6



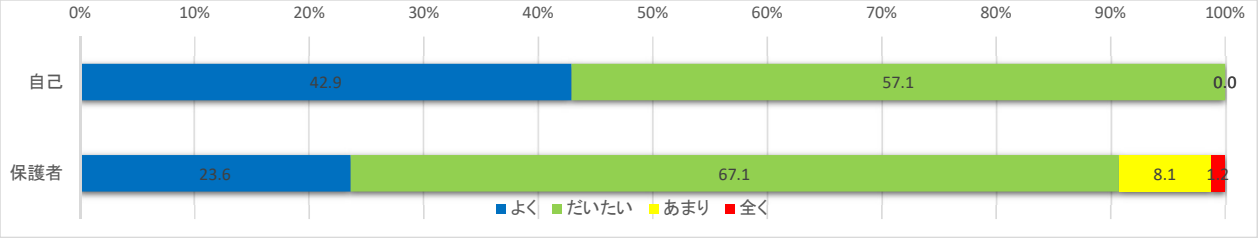
考察

・毎日の委員会活動（花の栽培、あいさつ活動、健康観察、放送当番）は、活発な取組ができた。また、青雲祭は、コロナによりこれまでの伝統が途絶えていたが、コロナ禍以前に近い形で行いうことができた。今後も生徒が主体的に活動ができるよう工夫していくことが必要である。
・「誇れる西中」（あいさつ・清掃。時間）に対する生徒の意識は引き続き高く、伝統として誇りをもって生活していることがうかがえる。

Ⅵ教師として自覚を持ち、自己研鑽に励み組織的な教育活動の実践（職務遂行）

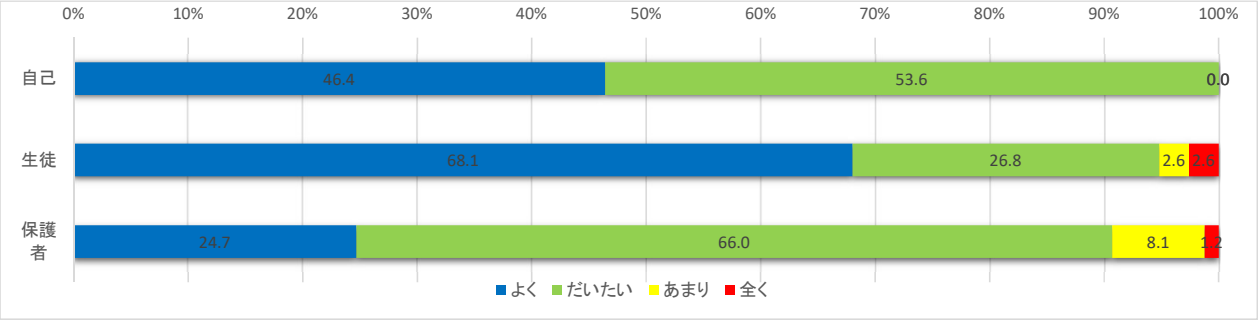
１　学校経営方針

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	学校経営方針や本年度の重点・柱を意識し、実現のため努力している	42.9	57.1	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0
保護者	学校の教育活動は、保護者の願いと概ね一致している	23.6	67.1	8.1	1.2	90.7	87.2	93.3



２　組織としての職務遂行

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	教職員としての責務（服務・勤務・研修等）を果たし、職員が連携・協調した実践が進められている	46.4	53.6	0.0	0.0	100.0	100.0	95.2
生徒	先生方は、生徒のために一生懸命取り組んでくれる	68.1	26.8	2.6	2.6	94.9	96.8	98.3
保護者	学校の教育活動・学校運営は全体的に満足できる状態である	24.7	66.0	8.1	1.2	90.7	89.8	94.6



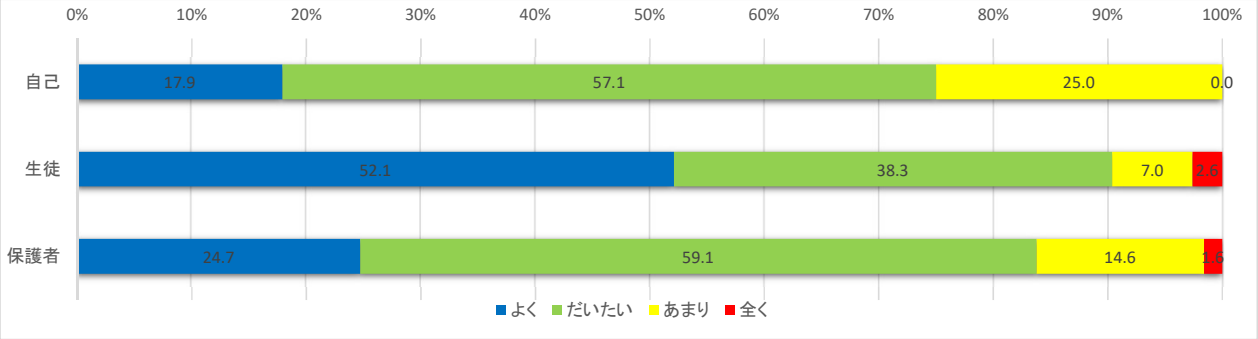
考察

・学校の教育活動についてはほぼ9割の保護者が肯定的に捉えている一方、10%弱の保護者が否定的に捉えている。教職員として丁寧な説明や情報発信を心がけて理解を求めていきつつ、職責を果たしていかなくてはならない。生徒や保護者の願いを受けとめ、寄り添いながら、教育活動を進めていきたいと考えている。

Ⅶその他（環境整備）

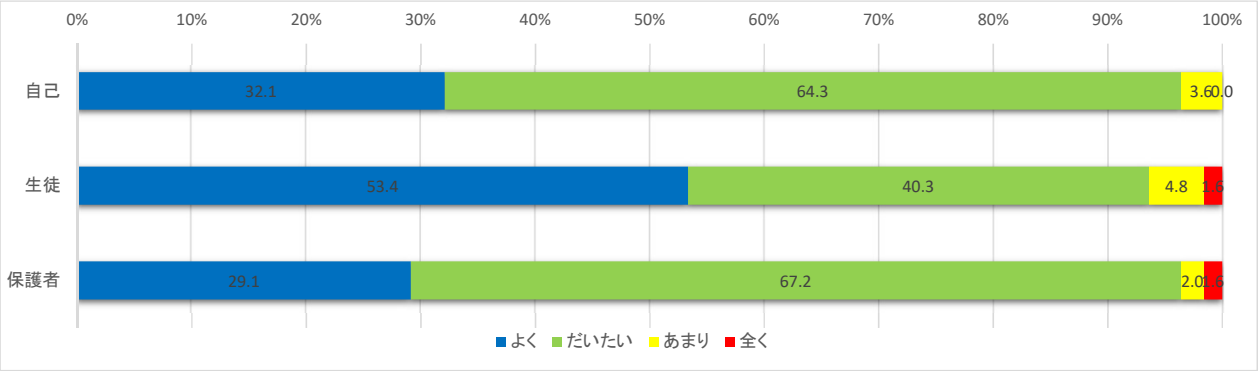
１　あいさつの励行

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	生徒は進んで「明るくさわやかな挨拶」をしている	17.9	57.1	25.0	0.0	75.0	78.5	87.5
生徒	自ら進んで「明るくさわやかな挨拶」をしている	52.1	38.3	7.0	2.6	90.4	94.1	91.7
保護者	生徒は「明るくさわやかな挨拶」ができている	24.7	59.1	14.6	1.6	83.8	88.4	89.9



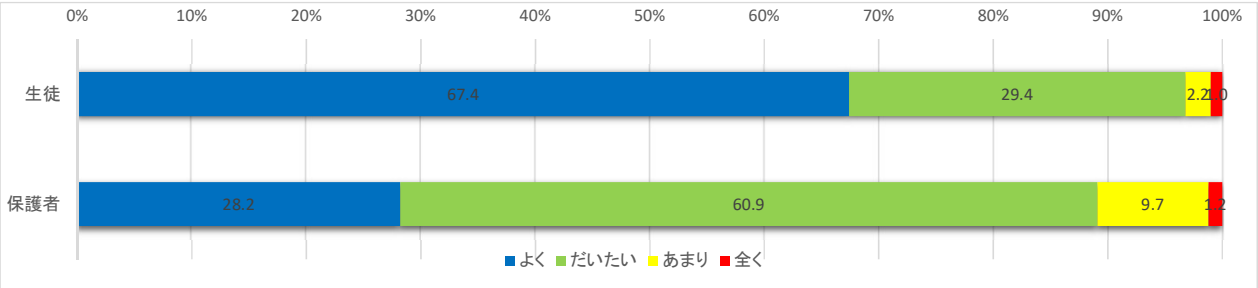
２　整理整頓

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	教室をはじめ校内の環境が整備されている	32.1	64.3	3.6	0.0	96.4	100.0	96.9
生徒	学校内は整理整頓されている	53.4	40.3	4.8	1.6	93.7	96.4	95.4
保護者	学校は、清掃など環境美化が行き届いている	29.1	67.2	2.0	1.6	96.3	95.9	95.2



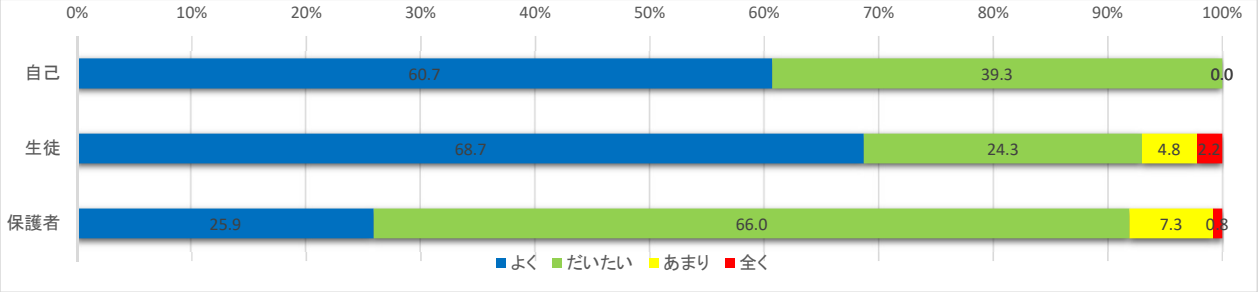
３　言語環境

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
生徒	時と場に応じた言葉遣いをしている	67.4	29.4	2.2	1.0	96.8	96.0	96.9
保護者	西中の生徒は礼儀正しい言葉遣いができる	28.2	60.9	9.7	1.2	89.1	89.1	93.3



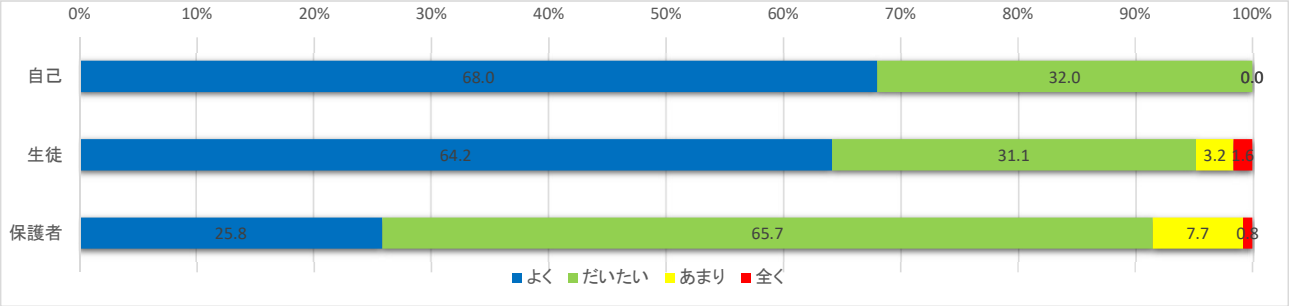
4　情操教育の推進

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	合唱活動、朝読書、ボランティア活動、校内の掲示など多方面から生徒の心を豊かにする取り組みが進められている	60.7	39.3	0.0	0.0	100.0	100.0	96.9
生徒	合唱活動や朝読書など心を豊かにする活動に楽しく取り組んでいる	68.7	24.3	4.8	2.2	93.0	97.7	96.0
保護者	学校では生徒の心を豊かにする教育が行われている	25.9	66.0	7.3	0.8	91.9	87.7	92.7



5　感染症予防対策

評価項目		1	2	3	4	R5肯定的%	R4肯定的%	R3肯定的%
自己	学校では、適切な感染症予防対策を行っている	68.0	32.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0
生徒	学校では、適切な感染症予防対策を行っている	64.2	31.1	3.2	1.6	95.3	93.8	98.0
保護者	学校では、適切な感染症予防対策を行っている	25.8	65.7	7.7	0.8	91.5	96.3	97.5



考察

・合唱祭に向けての取組は、短期間ではあるが一生懸命取り組むことができ、生徒の満足感は高い。生徒はあいさつや言語活動についても意識して生活をしている様子がうかがえるが、職員や保護者の肯定的な回答は低下している。リニューアル工事により環境が整えられたことから、きれいな環境を維持する活動を含め、情操教育やあいさつ、言語教育等に力を入れ教育活動を進めていきたい。

総括（来年度の教育課程の編成に向けて）

・5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上第5類に分類され、コロナ禍前の学校生活に徐々ではあるが戻す年度ではあった。生徒にとっては逆にこれまでにない取組をしなければならない年度であったため、負担を感じた生徒もいたのではないかと考えられる。学習面や生活面など学校生活全てにおいてきちんと振り返りをし、次年度に向けて準備を進めていく必要がある。
・生徒、保護者ともに概ね肯定的な回答が占めているが、いじめ問題への対応、教育相談体制、学校の教育活動へ対応は、生徒や保護者の願いを受け止め、引き続き丁寧な対応を心がけていく必要がある。また、一方で学校の取組や指導意図が保護者に十分に伝わるよう、積極的に学校開放や情報発信に努めていく必要がある。
・本校においても不登校生徒に対し、校内支援センター等の設置、いつでも相談できる体制、学びたいときに学べることができる体制づくり等、進めている。併せて、関係する保護者に向けても丁寧な案内をしていく必要がある。一人一台端末を使った授業配信は、欠席生徒、保護者のニーズに応じ、引き続き行っていく。
・一人一台端末は、より効果的な活用について研究を進め、各教科等に求められる資質・能力だけではなく、情報活用能力を高めていくためにもその活用をさらに広めて行く必要がある。また、個別最適な学びの実現には欠かせないツールであることから、授業では一斉での活用だけでなく、生徒個々が必要に応じて活用ができる場面を増やし、活用の日常化を進める必要がある。
・生徒の「学びの記録」の有効性について肯定的な回答が減少し、家庭学習と関連付けて活用している教員の割合も減少している。その有効性について校内研等を用いて教員間で再確認し、具体的な活用方法について生徒に示すことが望まれる。小集団の活用は各教科等で取り入れられ、他者の意見を参考に自身の考えを再構成するなどの話し合いが活発に行われている。主体的・対話的で深い学びの実現、充実に向けた一つの方法として、今後も続けていく。
・新型コロナが5類に分類されたが、少なからず生徒の心に影響を及ぼしていることが考えられることから、引き続き特別の教科道徳の時間を要とし、学校生活全般を通して、心の教育の充実に努めていく。
・引き続き保護者アンケート、生徒アンケートはICTを活用し、保護者、生徒、教員の負担を減らしつつ、その分の時間を様々な教育活動に充てるようにする。
・安心・安全を第一に考えながら、子供たちのためにという教育の原点を大事にして、質の高い教育活動の実施に努めていく。